

浜田町長

町づくりの基本である第8期総合計画をベースに、三世代のつどうまち「第4章」の公約実現に向け、「活性化」、「協働」、「安心・安全」、「人づくり」の4つの柱と「16の重点施策」について具体的な取り組みを推進していく。

予算規模、重点施策については、例年であれば概ねの概要を示すことができるが、今回は国税の落ち込みの影響など未確定要素もあり、詰り切れていない状況にあり、継続事業(新得小学校大改修)の早期完了や、子育て支援への予算措置を考えている。

総合計画は、令和2年度に前期5年間を終了することから、次年度では後期計画

の策定作業を進め、令和3年度から新たな課題解決に向けた取り組みを進める。厳しい財政状況であるが、必要性や緊急性に基づき、総合計画、財政管理計画、登載事業など優先順位を付けながら予算編成する。



大澤一文議員

問 屈足地域の医療をどう考えているか

答 町民に身近な医療をというのとは基本方針

屈足地域には、現在歯科を除き医療機関はなく、毎週火曜日に小規模多機能センター「らら」で、町内の医師による巡回内科医療が行われている。

屈足地域は町内でも高齢化が進んでおり、健康で安心して暮らすためには、何時でも近くで見てもらえる医療機関が必要と考え、左記2点について伺う。

- ① 屈足地域への医療機関の誘致について
- ② 今後の屈足地域の医療について

浜田町長
屈足では平成19年9月の辻岡医院閉院以降、現在まで医療機関はなく、町民が安心安全な生活をする上で、近いところに医療体制を整備し

ていくことは、これまでこれからも基本方針として対応していく。

平成19年以降、屈足地区へ医師募集を続けており14名の問い合わせがあったが、協議等の結果、前に進まないのが現状であり、屈足地域に医療機関の確保は重要と考え引き続き取り組んでいく。

地域医療について今後、住民の細かなニーズや課題の把握に努め、要介護者等に対する福祉交通助成制度の拡大、通院手段の確保にも努めていく。

問 レイク・イン休業に対する町の考え方と支援について

答 灯を消さないよう努力したい

레이크・インは1991年12月に新得町の経済・産業活性化、就労、屈足地域の振興策などで開設され、2008年民間に売却され、町内在住者の雇用確保にもつながった。

今回、레이크・インが1月5日より4月末まで休業するということから町内在住者22名町外者6名が解雇される。

地域振興、雇用の場の確保、屈足地域の入浴施設の確保の点から、左記3点について伺う。

- ① 町は休業撤回を企業に強く要請しないのか。
- ② 町が支援できることはないのか。
- ③ 解雇された従業員の新雇用についてどう考えているのか。

浜田町長

民間企業である(有)十勝屋が営業を考えた上での休業なので、地域の活性化の拠点的な施設であり、どのような支援が町にとつて考えられるか、協議を重ねているところ。

必要性の認識は、貴戸議員にも話したが同じ認識かと思う。

皆様の思いを十分理解できる部分もあり、最大限の限が難しい部分もあるが、町民の理解をいたでけるよう、とにかく灯を消さないということだけで、努力していきたいと思っ

